

平成30年度 第1回野生鳥獣被害対策本部会議実施内容及び議事概要

1 日時 平成30年7月10日(月) 午前10時から午前11時まで

2 場所 長野県庁 特別会議室

3 会議

- | | |
|--------------------------------|------|
| (1)平成29年度 野生鳥獣による農林業被害等の状況について | 資料 1 |
| (2)平成29年度 ニホンジカの捕獲実績について | 資料 2 |
| (3)平成30年度 野生鳥獣被害対策の主な取組について | 資料 3 |
| (4)その他 | 資料 4 |

4 議事

事務局及び担当部局から、それぞれ資料等に基づき説明を行い、意見・質問を問うたところ、次のとおり意見・質問とそれに対する説明があった。

発言者	発言内容
事務局	<p>ただいまから、平成30年度第1回野生鳥獣被害対策本部会議を開催いたします。本日の全体の進行を務めさせていただきます対策本部事務局の鳥獣対策・ジビエ振興室の三枝哲一郎でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、副本部長の中島副知事からごあいさつをお願いします。</p>
中島副知事	<p>皆さまお疲れ様です。副知事の中島でございます。</p> <p>被害対策については、県各部局はもとより、市町村、猟友会など関係者の皆様の積極的な取組をいただいていることに、感謝しております。</p> <p>おかげさまで、平成19年11月の立ち上げ以降、H20年から10年連続で被害額が減少するなど、着実な対策の効果が見られていますが、いまだ被害額が8億円を超える状況が続いており、引き続き関係部局が連携しての取組をお願いします。</p> <p>本日は、これまでの防除対策、生息環境対策を組み合わせた野生鳥獣に負けない集落づくりにあわせて、ニホンジカの捕獲促進などの捕獲対策等の方策の確認とともに、ツキノワグマの大量出没が予測される等の側面を踏まえた野生動物による人身被害防止に向けた普及啓発やジビエ振興対策を各部局の連携・協力により取り組みを進めてください。</p> <p>本日は、限られた時間ではあるが、それぞれの立場で、より効果的な対策が実施できるように、活発な意見交換をお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議は、恒例により林務部長の司会で進めさせていただきます。山崎部長よろしくお願いいたします。</p>
山崎林務部長	<p>司会をつとめさせていただきます林務部長の山崎 明でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず本日は、率直のご意見をいただきたいのでよろしくお願いいたします。それでは、会議事項の(1)「平成29年度 野生鳥獣による農林業被害等の状況について」を事務局から説明願います。</p>

<p>巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>野生鳥獣被害対策本部事務局長の林務部鳥獣対策・ジビエ振興室長 巾崎史生で ございます。</p> <p>(1)「平成29年度 野生鳥獣による農林業被害等の状況について」について説明いたします。</p> <p>県下の農林業被害は、関係する皆様の御尽力のお蔭もあり、平成19年度から減少傾向となっており、昨年度は8億3千万円超で引き続き減少傾向となっています。また、加害獣別の被害額の割合は、ニホンジカが一番大きく35%、ツキノワグマ、ニホンザル、イノシシがそれぞれ1割程度となっています。</p> <p>地域別の農林業被害では、ニホンジカとツキノワグマによる造林木の樹皮剥ぎ被害により、南信州地域が突出しています。</p> <p>農業被害は南信州、長野、松本、上伊那地域などが多く、被害額の50%以上を果樹被害が占めています。農林業被害合計額は、ツキノワグマによる林業被害が増加した北信地域を除き、いずれの地域も減少となっています。</p> <p>獣種別では、内容は、ニホンザル、イノシシは農業被害が主、ツキノワグマは林業被害が主、ニホンジカは農業、林業両方の被害となります。</p>
<p>山崎林務部長</p>	<p>続いて、</p> <p>(2)「平成29年度 ニホンジカの捕獲実績について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>「平成29年度 ニホンジカの捕獲実績について」について説明いたします。</p> <p>ニホンジカについては、平成13年度に第一期の特定鳥獣保護管理計画を策定して27年度末の第三期計画終了までの間に28万頭弱の捕獲を進めてきました。</p> <p>しかし近年、シカが捕獲しづらい状況が生じており、25年度、26年度には4万頭弱であった捕獲が、27年度には、31,885頭と目標の4万頭には届きませんでした。28年度はこの傾向がさらに顕著になり、25,733頭と5年ぶりに3万頭を下回り、29年度も同様に26,250頭となりました。</p> <p>これはある程度捕獲が進んだことにより、警戒心が高まり捕獲しづらくなったシカが増えている可能性が高いものと考えております。</p> <p>現在ニホンジカの管理は、以前から生息の多かった「南アルプス」「八ヶ岳」「関東山地」の3つのユニットのほか、近年分布が拡大している5つのユニットを含む計8つの管理ユニットごとに対応しています。</p> <p>ユニット別の捕獲実績をみると、南アルプスユニットでは目標を達成しつつ捕獲数が減少してきており、捕獲の効果により生息数が減少に転じるとともに警戒心が高まり捕獲しづらくなったシカが多くなっているのではないかと推測されます。関東山地ユニットについても、規模は小さいですが南アルプスと同様です。</p> <p>八ヶ岳ユニットは、目標が達成できない中で捕獲が減少しており、別荘地などもあり、捕獲が進めにくい地域があることや、急激な捕獲数増加等の影響により警戒心が高まり捕獲しづらくなったシカが多くなったことが推察され、従来とは異なる新たな手法での捕獲の推進が必要ではないかと考えています。</p> <p>なお、南アルプスや関東山地などの生息数が減少に転じた可能性のあるユニットについても、気を緩めることなく、まだまだ継続的に捕獲することが必要であり、八ヶ岳とは違った、実情に応じた捕獲を進める必要があると考えています。</p> <p>地域振興局ごとの捕獲の推移では、29年度も佐久地域が6千頭弱で最多となっています。上伊那地域では捕獲方法の工夫などにより29年度の捕獲数が28年度より回復しています。</p> <p>今後は、平成29年度に実施しました効果的捕獲の推進に向けた専門家による検討を受けて、シカの生息分布、空間利用情報等を関係者で共有し、情報に合わせた捕獲を進めていきます。</p> <p>シカによる自然環境への影響の事例では、八ヶ岳地域の霧ヶ峰をみると、シカ侵入防止柵の柵内と柵外の植物の種数で、柵外は種数が減少しています。そのうちマツムシソウの分布状況の写真をみると、柵内には分布するマツムシソウが、柵外ではまったく見られない状況です。いずれにしても、シカによる植生への影響が続いている状況です。</p> <p>また、ニホンジカの生息密度分布推定図(H27)を各ユニットの区域図と合わせてみていただくと、赤色の高密度の箇所と捕獲が進まない、捕獲がしづらい八ヶ岳ユニットとほぼ同じであることが分かります。このように状況を可視化することにより、シカの生息状況の共通理解を深めて、捕獲につなげていきたいと思っております。</p>

山崎林務部長	(1)、(2)についてのご質問があればお願いします。
中島副知事	南アルプス、関東山地は捕獲も進んでいるが、八ヶ岳は農林業被害は減少しているものの、捕獲対策がうまくいっていないことから、今後も状況を注視して進めていただく必要があります。 今回示してもらった全県のシカ生息密度分布は、今後はいつ調査される予定ですか。
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	ニホンジカの生息状況調査は、2019年度に実施する予定です。
中島副知事	八ヶ岳ユニットについては、目標達成に向けて対策を進めてください。
山崎 林務部長	続いて、 (3)「平成30年度 野生鳥獣被害対策の主な取組について」事務局から説明をお願いします。
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	「平成30年度 野生鳥獣被害対策の主な取組について」について説明いたします。 野生鳥獣被害対策については、「長野県野生鳥獣被害対策基本方針」に基づき、長期目標である「野生鳥獣との緊張感ある住み分けの実現と農林業・自然環境・人身への被害の軽減」を目指し、農作物や造林木、自然環境を守るための「防除対策」、鳥獣が出没しにくい環境とするための「生息環境対策」、捕獲者の確保・育成や実際にニホンジカ等を捕獲するための「捕獲対策」を各部局の連携で推進するものです。 また、それらに付随し、捕獲せざるを得ないニホンジカを地域資源として有効活用し、信州ブランドとしてのジビエを振興することにより、「豊かな地域づくり」も目指すこととしています。 「捕獲対策」については、ハンター養成学校の開校等、引き続き今まで同様に推進していきます。「効果的な捕獲対策」についても引き続き推進していくとともに警戒心が高まり捕獲しづらくなったシカの捕獲を想定した捕獲技術の実証に取り組みます。また、センサーカメラ等を活用した行動把握のための調査も行います。 「防除対策」については、引き続き侵入防止柵等の設置等を進めていきます。「生息環境対策」については、里と森林の間の藪の刈払いなどの緩衝帯整備を進めるとともに、野生獣の移動経路を除去する河畔林整備等を進めていきます。 「ジビエ振興対策」については、首都圏へのPRを含む各種イベントを展開します。また今年度、ジビエコーディネーターを配置し、信州ジビエの流通強化と消費拡大に向けて取り組みます。 「その他」として、人身被害防止に向けた普及啓発を関係部局が連携し、進めていきます。
建設部蓬田河川課長	森林税を活用した河畔林等の整備については、一級河川16か所のうち5ヶ所を計画し、クマ対策にも資する箇所は5ヶ所のうち3か所で、地権者の承諾を得る必要があります、実施に向けて準備を進めています。
山崎林務部長	(5)「その他」について、事務局で何かございましたらお願いします。

<p>巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>今年度の対策本部会議については、3回の開催を予定しており、第2回は、9月中下旬ごろに事業の実施状況、実施事例を報告し共有したいと考えています。</p> <p>第3回目は、2月の下旬頃、各地の取組状況を報告させていただいたうえで、次年度に向けた意見交換をいただければと思っています。</p> <p>各被害対策チーム・市町村に向けた対応としては、野生鳥獣保護管理・被害対策担当者研修(1)を、6月21日に鳥獣の生態を中心に開催し、市町村職員65名と県職員30名が参加しました。また、第2回は7月31日から8月1日の2日間を予定しており、防除対策の実習、捕獲に係る法令の考え方、被害対策に関する補助制度等について実施予定です。</p> <p>これらの研修については、市町村や県において毎年人事異動等により担当職員が入れ替わるため、毎年実施する必要があると考えています。</p> <p>第二種特定鳥獣管理計画(第3期ニホンザル管理)が、30年度末に計画期間が終了することから、引き続き2019年度から2023年度までの同計画を策定してニホンザルの管理を実施するため、策定にあたって今年度、環境審議会に諮問しました。</p> <p>目標は、ニホンザルの地域個体群の安定的な維持及び農林業被害の軽減と人身被害の防止です。今後、「野生鳥獣等保護管理検討委員会」と「ニホンザル専門部会」で検討していただき、31年3月には答申をいただけるよう、策定に係る手続きを進めていきます。</p>
<p>巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>本県では平成18年度以降、ツキノワグマの大量出沒が4年ごとに確認されております。</p> <p>通常クマは、ドングリなどの堅果類を求めて夏の終わりから標高の高い場所に移動し、人里への出沒は減少しますが、秋にドングリなどの堅果類が凶作の場合、多くのクマが栄養を蓄えられないため、人里の周りのエサを求めて出沒することが、異常な出沒になる大きな要因になると言われています。</p> <p>ツキノワグマの出沒期前の対策について、今年度は今までの取組みの他、初めて観光部、教育委員会、建設部と連携し、新たな人身被害防止の取組みを進めています。</p> <p>観光客等への注意喚起ですが、観光部及び県下の観光客安全対策推進会議等を通じ、キャンプ場等観光施設の経営者又は管理者に施設周辺のパトロールをお願いするとともに、利用者へ注意喚起のチラシを配布し周知していただくようお願いしております。</p> <p>また、児童・生徒等への注意喚起・啓発は、学校での啓発ポスターの掲示、チラシの配付等をお願いするとともに、全県各校の校長会議での周知をしていただいております。</p> <p>また、教育委員会主催の教職員を対象とした「学校安全・防犯教育研修会」の中でツキノワグマの専門家による「ツキノワグマの出沒に備える安全教育」の講義を実施しています。</p> <p>河畔林等ツキノワグマの移動経路の除去については、動物が河川及びその周辺の河畔林を利用しながら移動し、集落へ出沒する事例があるため、クマ等の移動の抑制に効果があると考えられる河川とその周辺の河畔林等で樹木の伐採除去を行います。</p> <p>実施には、森林づくり県民税事業に新たに加わった河畔林整備事業を有効に活用するよう、地域において所有者との調整や手続きを進めているところです。</p> <p>人身被害を出さないよう、各地域の鳥獣被害対策チームを中心に、市町村、関係機関、地域の皆さんと連携して対策を進めていきますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>山崎林務部長</p>	<p>今年は、クマは早い時期から活動している傾向があるので、関係部局のみなさんと連携した取組を進めさせていただきたい。</p>
<p>農政部長</p>	<p>南信州では被害が多く、市町村との被害対策を進める話の中で、ニホンザルの被害を何とかしてもらいたいという話と銃猟者の確保が課題であるという話などが挙げられています。</p> <p>県内における銃猟者を増やす対策はどうなっていますか。県全体の動き、銃猟者の推移はいかがですか。</p>

巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	平成26年度からハンター養成学校を実施しこれまでに260名ほどが入校し、平成30年度も50名程度入校にいただいている。 しかし、狩猟者登録は約6000名程度で60歳以上が6割を超える。登録者数の免許種別では、わな猟免許に比べ、銃猟が減少している傾向はある。引き続き狩猟者の確保の取り組みは進めていきます。
山崎林務部長	次回の会議に、ハンター養成学校などの銃猟者の確保に向けた取り組みについてのより細かい情報を提供してください。 ニホンザルの対策は、適切に捕獲しないと群れの分裂を招くことがあるなど、科学的な知見に基づき、対策を計画の策定の中で検討してください。
環境部長	北信地域では、サルについても農林業被害と観光の側面を考えなくてはならず、被害対策は難しいと思う。また、観光地周辺では、クマ対策も観光客への対応が難しく、各方面の知恵をお借りして対応する必要があります。
観光部 丸山山岳高原 観光課長	クマ対策については、できることは限られるが、観光関係の会議を通じてクマに対する注意喚起を促していくなどの情報提供を進めています。
中島副知事	都市部の長野市周辺での河畔林などへの対応はどういう状況ですか。
建設部 蓬田河川課長	裾花川、浅川には、事業で対応していくよう進めています。
山崎林務部長	ありがとうございました。それでは、最後に全体を通してご意見、ご質問がありましたらお願いします。
中島副知事	サルの被害は横ばいですが、被害対策は科学的な視点を踏まえて、地域振興局と連携をとって対策を進めてください。 来年度のG20に向けて、ジビエを含めて各部局での取り組みを進めていただくこともお願いします。
山崎林務部長	まだまだ、ご意見あろうかと思いますが、時間の関係もございますので、終了とさせていただきます。
事務局	どうもありがとうございました。 これで、第1回野生鳥獣被害対策本部会議を閉会いたします。

5 閉会